

ツヌジ御嶽



ツヌジ御嶽は大世の主をまつる赤崎御嶽の遥拝所(遠く離れた所から神仙などを拝む場所)で、毎年旧暦6、8、10月の甲午の日に例祭が行われ、11月には御願が行われます。

昔、赤崎御嶽の例祭日に出かけた途中で大雨にあい、大岩の陰で雨宿りをして晴れるのを待つも、なかなかやまず、仕方なくその大岩に供え物をし、行けない事情を報告して帰路についたことがあったそうです。それ以来、雨宿りした岩を赤崎御嶽のご神体として拝むようになったといわれています。

今では、赤崎御嶽にお参りするの
は司や神女たちで、一般の人々はツ
ヌジ御嶽から遥拝するようになって
います。

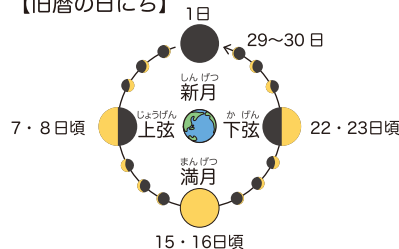


旧暦と干支

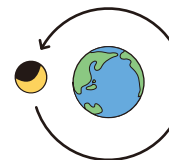
旧暦とは

月の満ち欠けと太陽の運行をもとに作られた「太陰太陽暦」のこと。
日本では、1872(明治5)年まで「天保暦」が使われていました。
昔からの風習や、行事の多くはこの旧暦に従って行われています。

【旧暦の日】

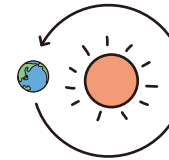


太陰暦



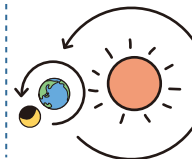
地球の周りを、月が1周する動きをもとに作られた暦。季節と無関係。潮の満ち引きや動植物の変化が分かる。1年は12ヶ月で、小月(29日)と大月(30日)がある。

太陽暦



太陽の周りを地球が1周する動きをもとに作られた暦。現在、世界中で使われているグレゴリオ暦(新暦)のこと。季節と日にちが合っている。

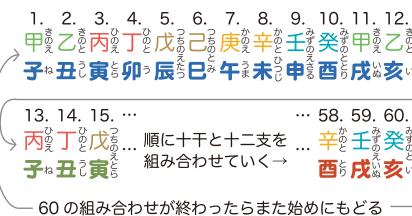
太陰太陽暦



月の満ち欠けを中心に太陽の動きを取り入れた暦。うるう月の入る、1年が13ヶ月の年もある。

干支とは

「十干」と「十二支」を組み合わせ、60を周期とした数詞で、暦や時間、方位などに用いられます。



それぞれの干支には、「子」は子孫繁栄・財、「午」は豊作・健康といった意味がある。

例：2013年4月28日の場合、

年の干支：2013年は癸巳、

次の癸巳の年は60年後の2073年

月の干支：4月は丁巳、以下5月戊午、6月己未

日の干支：28日は甲子、以下、29日乙丑、30日丙寅

【十二支】

「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類で年や月、方角、時間を表す。

【十干】

等級区別に使われる「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10区分を、五行や陰陽の考え方と組み合わせたもの。



五行：自然や世界は木・火・土・金・水の5つの元素からなるという考え方。陰陽：陰と陽の対立する2つの気があり、全ての気はこれのふたつの気からなるという考え方。日本では陽を兄、陰を弟とする。

ミャーツ墓



この墓は、16世紀前半、当時下地の主長を務めていた川満
 大殿の命を受け、与那覇湾に面する加那浜に石道を造り上げ、
 見事大任を果たした石工一族、浜氏の墓です。この一族系列で
 ある上地家の一部では、名前に「濱」の一字を付けていたとい
 われています。ミャーツ墓は、琉球石灰岩などの巨石を積み上
 げて造られています。宮古特有の巨石
 墓で、四方を囲った上に大きな一枚岩
 を乗せており、このような形態の墓を
 「ミャーカ」といいます。



スムリャーミャーカ



集落から約800m南方にあるスムリャー(長間家)一族の
 ミャーカ(巨石墓)で、古くは来間大殿ミャーカ、近代ではグ
 ンソーミャーカとも呼ばれ、大正時代まで使用されていたと
 伝えられています。東西9m、南北およそ6.5mの長方形で、
 高さは2.5mあり、上部は3.5m×3mの板状の石で覆われて
 います。墓の内部からは14~15世紀
 頃の青磁片なども見つかっており、
 ミャーカの特徴をよく表しています。



ヤーマス御願



ヤーマス御願は毎年旧暦8～9月頃の甲午の日に行われ、島を挙げて子孫繁栄や五穀豊穰を願う一大行事です。

島民は、島の伝承

にまつわるスムリャー、ウプヤー、ヤーマスヤー3兄弟のブナカ(祭場)のいずれかに所属して祭りに参加します。1日目は早朝からそれぞれのブナカに集まり、車座になってサラピヤース(祈願詞)を詠唱し、角皿に注がれた神酒をはやしに合わせて回し飲みます。昨年の祭りからこの日までの1年間に誕生した子どもをブナカに披露し、健やかな成長を願う「マスムイ」、21歳になって正式にブナカに仲間入りした若者を祝う「マスピヤー」が行われます。2日目の午後にはパレードが行われ、スムリャーを先頭にウプヤー、ヤーマスヤーが練り歩きながら集落を一周し、四辻などで勇壮な棒踊りを披露します。引き続き雨乞い座に集まって祝宴を開き、参加者たちは島の繁栄と豊年を願いながら踊りを奉納します。祭りには出身者も多く参加するため、とても賑わいます。

来間の島建て

昔、川満の喜佐真按司に美しい娘がおりました。ある朝、太陽の強い光が当たると娘のお腹が大きくなり、3年と13日目に3つの卵を産み落とし、3日後に大きな男の子が3人産まれました。喜びもつかの間、長男は1日に米を7升、次男は5升、三男は3升も食べたので、世話をしきれないと思った母は、子のない与那覇勢頭豊見親に差し出しました。ところが勢頭豊見親もとても育てられず、「来間島に行ってはどうか」と3人を島へ行かせました。

3人が島に渡ると、島には90歳のおばあさんがたった1人で住んでいました。なぜ誰もいないのか尋ねると、海から恐ろしい赤牛が来て皆をさらってしまったと言うのです。そこで三兄弟が海に様子を見に行くと、赤牛が恐ろしい勢いで襲いかかって来ました。弟ふたりは敵わらず、長男が角を掴まえて地面に叩きつけ、「降参なら許す」と片角を引き抜いて逃がしました。

翌朝、潮がすっかり引いた海で牛を捜し歩いていると、海の底にきれいな女の人がいる！と三男が言いますが、兄たちには見えません。三男

が潜ってみると、不思議なことに海底は陸になっていました。三男が見た女は「赤牛に捕まってここで門番をしている」と言うので、兄たちを呼び寄せ、女に案内され立派な家に入りました。すると、顔が血だらけの赤牛が這い出て来たので、なぜ人間をさらったのかと聞くと、「300年前の来間島は『千人原』といって下地島に新しい村を作るほど栄えていたのに、豊年祭をやめてしまった。だから怒ってここに連れてきたのだ」と言うのです。実は赤牛は来間の豊年の神様だったのでした。

「必ず豊年祭をするから、皆を返して欲しい」と頼むと、「もう誰も動けない。この娘だけ返そう」と返してくれました。その娘はおばあさんの子で、喜んだおばあさんは長男の嫁にしました。そして、2人の間に産まれた子どもが次男と三男の嫁になりました。それからは神様と約束した通り、三家で豊年祭を立派に行うようになり、こうして来間島は元通り栄えるようになりました。

『下地町の民話』上地正吉さんのお話より



あ ま ご い ざ

雨乞座のデイゴ



あ ま ご い ざ も と く り ま し ゅ う ち ゅ う が っ こ う ひ が し が わ し ん ぼ く う
雨乞座のデイゴは元来間小中学校東側に、神木として3本植
えられていました。毎年9月頃の甲午の日に行われるヤーマス御
願のとき、この神木の下で踊りが奉納されます。デイゴはスム
リャー、ウプヤー、ヤーマスヤーの3兄弟が1本ずつ植えたとい
えられていますが、1本は何者かに切り
た お たい ふ う た お
倒され、もう1本は2019年の台風で倒
れ、残る1本も病気のため枯れてしま
いしました。



さきしましょう ひ ばんむい
先島諸島火番盛 「来間遠見」



来間遠見は、沖縄県の2市2町1村の、19か所に点在する
遠見番所群のひとつです。琉球石灰岩を3mほど積み上げ、
方位を示す石も備えられています。第二次世界大戦で日本陸
軍によってさらに補強され、今の形になりました。

昔は対岸の与那覇前浜に役人の姿を確認すると、すぐに村
番所に伝え、はや舟を出して迎えることになっていました。

火番盛は1644(順治元)年、江戸幕府の鎖国体制下で琉球王
府によって設置されました。主に異国
船の到来を監視し、のろしを上げて各
地の火番盛を伝い、琉球王府へ知らせ
る機能を担っていました。



くり ま がー
来間川 (泉)



来間集落北側の断崖絶壁に約130段の石段があり、その階
下にこんこんと湧き出る島唯一の泉は、長年にわたり来間島
住民の暮らしと命をつなぐ源でした。いつの頃からか、泉の
中に樫の木が生え、それを取り除いたら水が出なくなって大
騒ぎになりました。ユタに頼んで神にお伺いを立てたところ、
神木の樫の木を取り除いたからだという神のお告げがあ
り、樫の木を元に戻すと再び水がこんこんと湧き出し、今日
にいたっていると伝えられています。

1975(昭和50)年に宮古島本島から
海底送水が行われるようになると、こ
の泉は使用されなくなりました。



くり ま じま だん がい しょく せい
来間島断崖の植生



地質は琉球石灰岩できており、島の半分を断層崖と波によって浸食された海食崖が取り囲み、高い所は海拔約45mあります。変化に富み、環境別に様々な植生が見られ、多くの貴重な草木が生えています。



くり ま じま しょくせい
来間島の植生



ぶん か ざい たい けい ず
文化財の体系図

ぶんかざい しゅるい
文化財の種類

とく か ち たか
特に価値の高い
もの

とく　じゅうよう
特に重要なもの

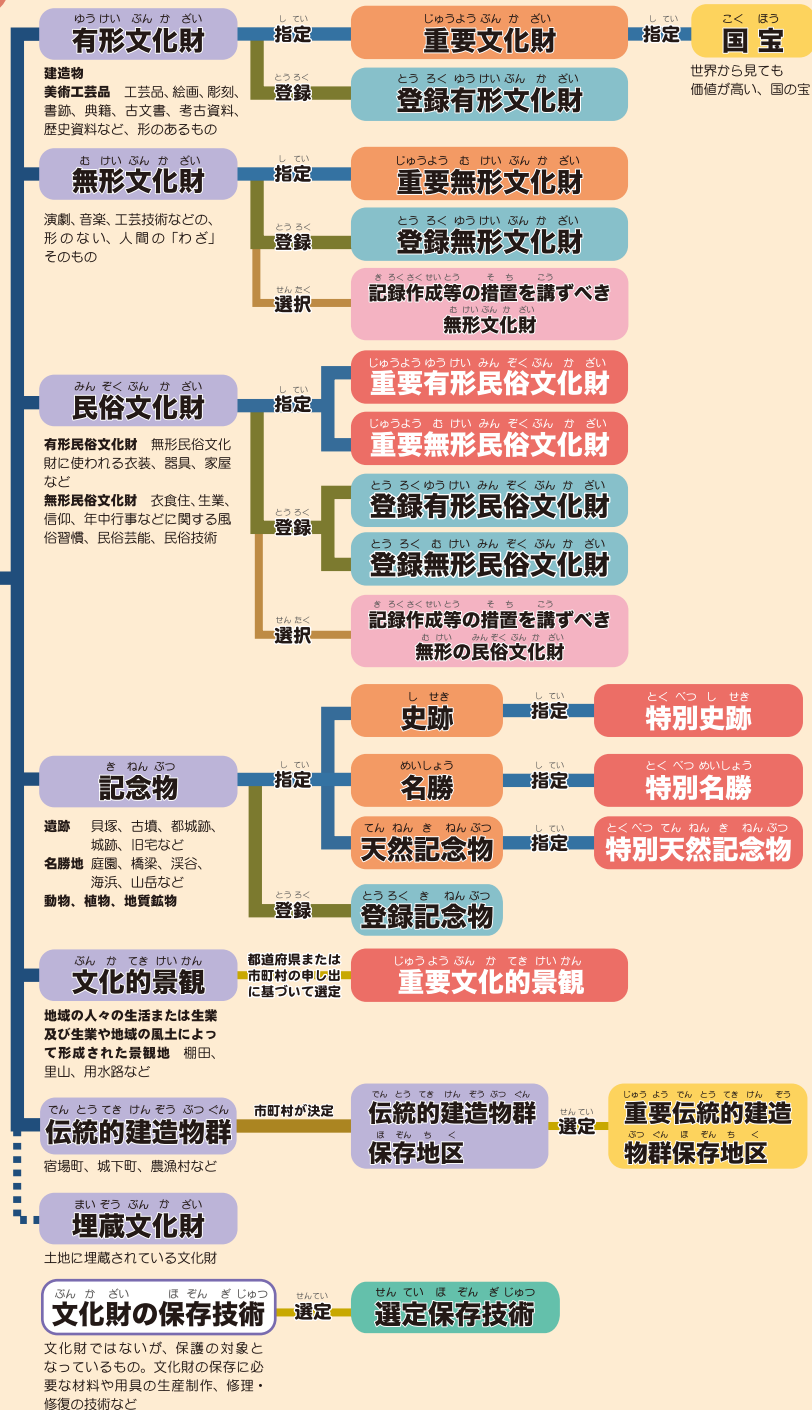
じゅうよう
重要なもの

ぶん か ざい
文化財

とく ひつよう
特に必要のある
もの

保存と活用が
特に必要なもの

保存できるよう
考える必要の
あるもの



それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

形のあるもの

形のないもの

無形文化財

文化財

文化的景觀

別府の湯けむり・温泉地
大分県（べっふの ゆけむり
おんせんち／おおいたけん）

傳統的建造物
群保存地區

記念物

要無形文化財

重要有形民俗文化財

**民俗
文化財**

重要無形民俗文化財

史跡 れきしじょうめいしよ
歴史上の名所

特別史跡

登録記念物

名勝

特別名勝

天然記念物

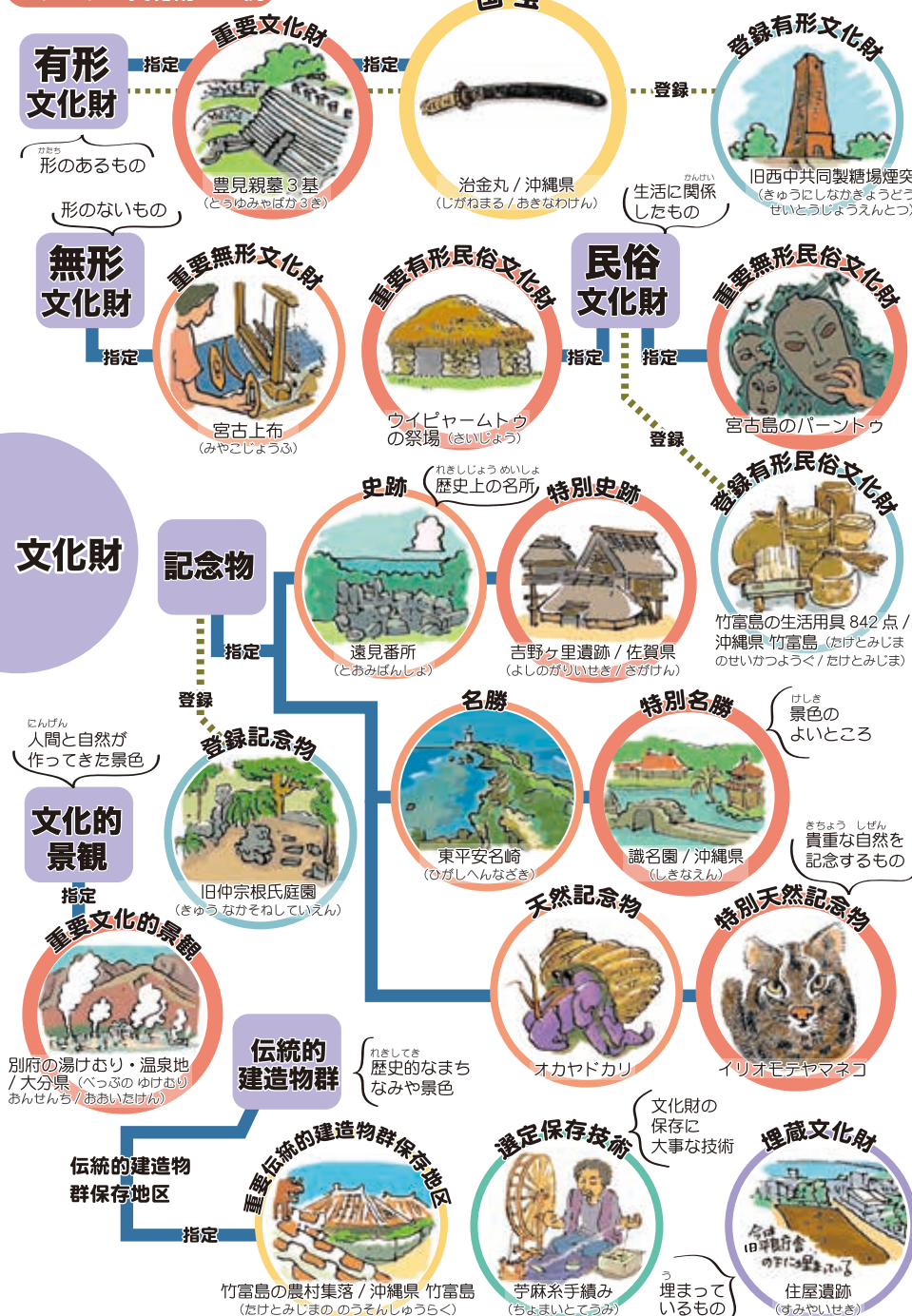
特別天然記念物

傳統的建造物群

重要伝統的建造物群保存地区

選定保存技術

埋藏文化財



わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です

たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子は非売品です (NOT FOR SALE)

宮古島市neo歴史文化ロード 綾道(下地・来間コース)

発行 初版 2013(平成25)年 3月
改訂 2019(平成31)年 3月・2021(令和 3)年 3月
・2025(令和 7)年10月

編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光